助けあいの輪

有田川町立吉備中学校2年
島田さくら

「税金」というのは、最も大きな「助けあいの輪」であると、私は思う。なぜならそれは、一人一人が税金を納める事により、日本を支えるという制度であるからだ。

平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災。私はテレビでその様子を見た時、なんとも言えない、悲しさに似たものを感じた。自分が住んでいるこの国で、私がテレビを見ている間に、同じ国に住む人たちが危機に瀕している。テレビ画面にうつるのは、津波の被害を受け、まるで焼野原のようにがらんとした街と、避難所の冷たい床の上で、毛布にうずくまっている人々の姿。どうにかして助けたい。少しでも背負っている荷を軽くできたなら…。そうどれほど思っただろう。でも私たちが実際にできた事は、募金と節電。少なくとも私はそれしかできなかった。テレビで毎日報じられる被災地の状況。それを見る

たびに、どうにかして力になれたら…と思った。

ちょっとずつ月日もたって、「復興」の動きが出てきた頃。津波が街を襲ったのが原因で、大量に発生した瓦礫。それを撤去するために必要な費用や、その他のたくさんの支援を、国が補償するのだと、私は知った。国が補償する――。つまり、私たちの納めた税金が利用される、という事。私は、とてもうれしくなった。私たちの納めた税金が、被災した人の支援のために使われる。もしそれが、被災された人の「笑顔」につながるのであれば、それほど良い事はない、と思った。私は今、笑っている。だから、笑顔を誰かに分けなくちゃならない。税金って、どんなに離れていても相手を助ける事ができるんだなぁ、と思う。

中学生の私たちが今、納められる税は、「消費税」くらいだと思う。でも、私たちも大人になれば、たくさんの税を納めなければ

ならない。「所得税」、「固定資産税」、「自動車税」…。いろんな税がある。大人になったら、きちんと納めよう、と思う。それは日本に生まれた私たちの義務でもあるし、今までも、多くの税に、私は助けられたから。毎日学校へ通って勉強できるのも、図書館へ行って本を読めるのも、全て税のおかげだ。もっと言うと、税金を納める日本国民全員のおかげだ。だから私たちは、税金を納めなければならない。税は、暮らしに絶対欠かせない

「助け」となって、日本を支えるものだから、大きくなったら、私は税金を、ちゃんと納めよう。助けを求める人に、手をさしのばしたい。私も「助けあいの輪」の一員になって日本を支えていきたい。「税金」というのは、最も大きな「助けあいの輪」。私はそう思うから。